

桜林遺跡

(岩船郡荒川町大字金屋字桜林1372ほか)

桜林遺跡は荒川町金屋集落の西側、荒川左岸の沖積地に立地しています。調査期間は4月10日から6月4日までの約2か月間で、調査面積は700㎡です。日沿道に係る本遺跡の調査は平成17年から開始され、今回で3回目となります。

調査では古代の溝2条、中世の井戸9基、土坑2基、溝2条、ピット65基を検出しました。井戸の断面形状は漏斗形や円筒形などで、全て素掘りです。また、土層の堆積状況から人為的に埋めて廃棄した様子が確認できました。

遺物は古代の須恵器や土師器、中世の珠洲焼や漆器椀、石製品や板材が出土しました。いずれも破片で、出土量はテン箱に4箱と少量でした。現在は報告書刊行に向けての整理作業を進めています。

(大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財調査部 橋澤道博)



調査区東側の遺構検出状況(東方向から)



井戸(SE301)土層堆積状況(南方向から)

北前田遺跡

(上越市大字上中田字北前田472番地ほか)

北前田遺跡は古墳時代～古代の遺跡で、青田川右岸の自然堤防上に立地し、標高18.5～19mを測ります。遺跡の東側には旧河道と考えられる一段低い落ち込みが見られます。北陸新幹線の建設に伴い、4～6月にかけて2,500㎡を対象とした発掘調査を行いました。

遺物は調査区東側にある2条の自然流路(SD2・SD5)から多く出土しています。SD2の上層(黒褐色土)からは古墳時代の土師器、SD5の上層(黒褐色土)及び砂層を挟んだ下層(暗灰色土)からは古代の須恵器・土師器などが出土しています。

遺構は周辺と比べて標高のやや高い自然流路の西側で多く見つっています。掘立柱建物が3軒重複して検出されたほか、古墳時代の土師器が出土している土坑、溝などがあります。遺構の性格や年代については、覆土の特徴や出土遺物などを検討したうえ、今後明らかにしていきたいと考えています。(株)ノガミ 金内 元



調査風景



SD2出土土器